

# 【談話】 中学校道徳教科書の検定結果及び教科書の特徴について

2018年4月13日 俵 義文（子どもと教科書全国ネット21事務局長）

文部科学省は、2018年3月27日、2019年度から使用する中学校道徳教科書の2017年度検定の結果を公開した。「特別の教科 道徳」は、安倍政権の「教育再生」政策の目玉として戦後初めて道徳の授業が教科化されたものである。道徳教科書の検定は、2016年度の小学校に続いて2度目である。以下、中学校道徳教科書の検定及び教科書の特徴について、いくつかの点でコメントする。

## 1. 検定合格した中学校道徳教科書の発行者

2017年度に中学校道徳教科書の検定を申請したのは、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書、日本文教出版、学研みらい、廣済堂あかつき、日本教科書の8社ですべて検定合格した。日本教科書以外は小学校道徳教科書を発行した教科書会社である。

新規参入の日本教科書株式会社は、安倍首相のブレーンとして知られる八木秀次・麗澤大学教授（日本教育再生機構理事長）らが2016年4月に八木氏が代表取締役社長に就任して設立した。設立時の所在地は日本教育再生機構の事務所と同じ場所にあった。八木氏は、道徳の教科化などを提言した安倍首相直属の教育再生実行会議の有識者委員で、「道徳の教科化」を推進した中心人物である。八木氏は16年9月に日本教科書の代表取締役を退任し、その後の社長には晋遊舎の代表取締役会長の武田義輝氏が就任している。晋遊舎は『マンガ嫌韓流』や元「在特会」会長の櫻井誠氏の本などヘイト本を多く出版している出版社である。日本教科書の現在の所在地は、千代田区神田神保町の晋遊舎の中にある。晋遊舎の「子会社」になったと思われる。日本教科書は、「道徳教育専門の出版社」で「文部科学省検定教科書の発行と供給」を主な事業とするとホームページで述べている。

## 2. 2017年度道徳教科書の検定の概要

### 検定意見の数—小学校との違い

8社の内、廣済堂あかつきと日本文教出版が別冊を出したので、発行教科書の本数は30冊である。検定意見の総数は184件で1冊あたりの平均は6.1件（2017年度検定の小学校は8社66冊で244件で1冊あたり3.7件）であり小学校より1冊あたりの意見数は多い。しかし、検定意見の内、日本教科書に付けられた意見は67件（全体の36%）で、日本教科書をのぞけば1冊あたり4.3件であり、小学校とそれほど大きな違いはない。

検定意見の内、小学校では184件中43件（23.4%）を占めた「学習指導要領に示す内容に照らして不適切」という意見はわずか7件（3.8%）であった。マスコミは「道徳教科書の初の検定で様々な注文があった16年度の“教訓”を生かし、教科書会社が配慮したことが背景にある」（「日本経済新聞」2018年3月28日）などと報道したがこれは正確ではない。小学校教科書の検定意見が伝えられたころには中学校教科書の申請本の原稿はほとんどできている。教科書会社は小学校よりも1年分多く時間があったので、教科書編集に十分時間をかけることができたことがこの結果につながったと推測できる。むしろ、文科省の教科書調査官（検定官）が、昨年のマスコミや研究者、私たち市民の批判を受けて検定で配慮したのではないかという推測の方が当たっていると思われる。

### 特徴的な検定例

- ・全巻に「学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切（我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度）」との意見が付き、「先人の思いとともに」という題材（花火や灯籠流しの話）の設問「季節の年中行事や儀式などに参加したとき、どのようなことを感じただろう」に、「また、先人が築いてきたことをこれからの社会に受けつぎ、日本を発展させていくために、私たちにできることはどのようなことだろう」を付け加えた（東京書籍・3年）。

- ・全巻に「学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切（友情、信頼）」との意見が付き、「私がピンク色のキャップをかぶるわけ」の設問「さまざまな友情の在り方を学んできた」の前に「同性どうしの友情や異性との友情など」を追加した（光村図書・3年）。

- ・杉原千畝の題材で、「日本はドイツと防共協定を結んでいる国です。そのために、あなた方ユダヤ人にビザを出すのは難しい立場にあります。…」に「生徒が誤解する恐れのある表現である（当時の日本

の外交政策)」との検定意見が付き、「私は数人分のビザならば発行することができますが、これほど多勢の人たちにお出しするのは難しい立場にあります」に修正した(学校図書・2年)。これは小学校でも同様の検定があったが、当時の政府の政策批判を許さないという意図によるものである。

### 3. 現段階で判明している中学校道徳教科書の特徴

子どもと教科書全国ネット 21 は、プロジェクトチームをつくって中学校道徳教科書の調査・分析・検討を進めている。この作業はまだ途中なので詳しい特徴は指摘できないが、マスコミ報道も含めて現在判明している特徴のいくつかを明らかにする。

#### 愛国心や伝統・文化の押しつけ

国家が定めた徳目・価値観の押しつけ、特に愛国心や伝統・文化を子どもたちに押しつける内容が各社ともに目立つ。これについて、「東京新聞」は「愛国へ日本礼賛 続々」の見出しで、「教科書各社は伝統芸能にたずさわる人々や生活習慣などを『日本の良さ』として紹介」と述べている。前述以外のいくつかの例を紹介する。

・東日本大震災後の日本人のふるまいをたたえる海外の報道を紹介(「市民の共通の利益のために『ガマン』する精神は日本人の最もよい面」「危機の中において、法に従い、秩序を守る気高さこそが、日本人のすばらしい国民性」)(教育出版・3年)。

・王貞治の随筆「国」を読んだあとの設問(「祖国をよりいっそう愛するに足る国にしていくために、どのような国の理想像を描いているか」)(廣済堂あかつき・2年)。

・「礼儀」を学ぶコラムで「私たちの日本の文化には、相手に対する敬意や思いやりを大切にするという伝統があります」(学校図書)

#### 子どもの内心の「愛国心」などを数値で「自己評価」させる

道徳の教科化にあたって文科省は、数値による評価はしないとしてきた。ところが中学校道徳教科書は、8社中東京書籍・教育出版・日本文教出版・廣済堂あかつき・日本教科書の5社が生徒に数字やレベルで4~5段階で自己評価させる欄を設けている。例えば廣済堂あかつきは、「日本人としての自覚をもち、国の発展に努める」などを①~⑤の段階で自己評価させている。これは明らかに生徒の内心を数値で評価させるものであり、こうした作業を通じて愛国心など国家がめざす価値観が生徒の内心に押しつけられていくことになる。

### 4. 日本教科書は完成度の低い、復古主義・国家主義的内容である

道徳の学習指導要領は、その内容項目を、A「自分自身に関すること」、B「人との関わりに…」、C「集団や社会との関わりに…」、D「生命や自然、崇高なものとの関わり…」という4つの大項目に分類して規定している。他社はこのA・B・C・Dに属する内容を適宜織り交ぜて配列し1冊を編集しているが、日本教科書は、各学年ともにA・B・C・Dを1ページから順番に扱っている。そのため、例えば1学期には「A」の内容だけを学習することになる。教科書づくりの「イロハ」を理解していない編集でありこの面からも学校では極めて使いづらいものである。しかも、前述のように検定意見数が飛び抜けて多かったが、その多くが字句の間違いなどであり、完成度が極めて低い教科書といえよう。

使われている教材が編集部で作文したと思われるものが多く、無理矢理に教えたい「偉人」などに無理やりに結びつける展開のものが多い。例えば、吉田松陰を登場させるために、中学生が陸上競技の走り込み途中で松下村塾の前を通る話などがその一例である。新潟県長岡市がハワイと姉妹都市提携をして真珠湾で花火を打ち上げるという「白菊」という教材の最後に何らの必然性もなく安倍晋三首相の真珠湾での演説を1ページ分載せているのもこうした意図によると思われる。こうした作文の多くが日本礼賛、愛国心の鼓舞になっている。

前述の自己評価も日本教科書が最も露骨である。「中学生で身につけたい 22 の心」として、「礼儀を大切にし、時と場に応じた言動を判断できる心」「国を愛し、伝統や文化を受け継ぎ、国を発展させようとする心」「日本人としての自覚をもち、世界の平和や人類の幸福に貢献しようとする心」などを4段階のレベルで評価させる内容である。

以上はごく一部の問題点であるが、他社と比べても子どもに学ばせたくない内容を多く含んでいる教科書である。

以上